

# いちご・牛・人を考え、地域に活力を！

～さあ！まんぞくする、にないて育成を！～

(課題番号 6)

◆活動年次：令和3～令和7年度

◆対象：様似町田代地区（44戸）

## 1 課題の背景

- ・地区の農業経営は、夏秋どりいちご、水稻、軽種馬、畜産が主体。
- ・夏秋どりいちごは、就農年数が少ない新規参入者が多く、労働負担の軽減も必要。
- ・畜産部門は、家族経営のため労働力不足が危惧される。
- ・多くの経営部門で後継者が少なく、地域の維持が困難となることが推察される。

## 2 活動の経過

### 夏秋どりのいちご経営の安定化

#### ①農業者間における技術の共有

- ・生育の不安を解消  
⇒基本的な栽培技術の実践している農業者の生育調査結果を共有。
- ・使用農薬の選択を迷わない  
⇒農薬を作用機構毎に分類したコード(RACコード)に基づき、使用農薬を整理。

#### ②作業の省力化

- ・排水量の確認等の簡略  
⇒古い上水道メーター(価格0円)を使った流量計を作成、試験稼働。



農業者への生育結果の伝達状況

### 畜産経営の安定化

#### ①肥培管理の改善

- ・牧草の収量確保  
⇒基肥の適正施用(時期・量・成分)を提案。

#### ②草地改善に向けた取り組み

- ・草地の状況を把握  
⇒農業者と植生・収量を調査、土壌pHに基づき管理の優先順位を協議。
- ・配合飼料の量を明確化  
⇒牛の脂肪蓄積具合を調査、牧草品質に応じた配合飼料の給餌量を助言。



植生調査の様子

### 担い手の確保

#### ①農業者の意識向上への取り組み

- ・新規参入希望者への理解を深める機会の創設  
⇒短期滞在型農業体験研修(主催:日高振興局)を重点地域を中心に開催するよう提案し、地域農業者を視察先とした。

#### ②担い手確保に向けた協議

- ・農地を維持する  
⇒人材確保に関する情報を提供。1次産業のリーダーによる、座談会を提案。



町担当者との協議

### 3 活動の成果

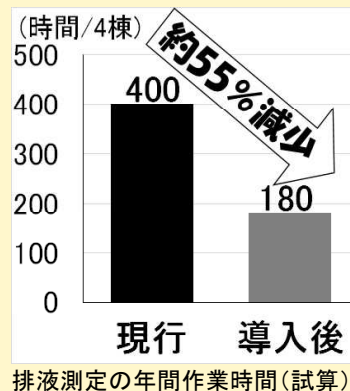
#### 夏秋どいいちご経営の安定化

- ①生育調査の結果、基本技術の実践で目標生育量となることを確認。農業者は結果を共有する事で、管理の違いを意識するようになった。
- ②RACコードを基準にした防除で、返品回数が減少。  
※返品回数：4回（前年29回）
- ③流量計の活用で、作業時間が55%減少（試算）。  
※労賃換算：約20万円/年



防除が上手くいって、うどんこ病が原因の返品は、ほとんどなかったよ。（農業者）

排液測定も時間が掛かっているから、作業時間が減ると負担が減るなあ。（農業者）



#### 畜産経営の安定化

- ①基肥の適正施肥が実施され、1番草収量は地区平均を確保。
- ②農業者が植生調査を行い草地の状況を把握、草地維持のための石灰散布を実施。
- ③牛の個体管理の重要性を意識するようになる、経営に必要な牧草収穫量を再確認。

対象農業者における草地管理の変化

	4月			5月			...	10月		
	上	中	下	上	中	下		上	中	下
例年				基肥	2.8kg					
R4	萌芽期	基肥	4.8kg					石灰散布		

粗飼料や配合飼料のバランスや、牛の個体管理の大切さを理解できたよ。（農業者）

自分で植生調査して、草地の現状が実感できたよ。（農業者）



#### 担い手の確保

- ①農業者と新規参入希望者が接することで、農業者の受け入れ意欲が向上。
- ②他産業との兼業を視野に入れた就農体験の取り組みを検討して行くことを合意。
- ③地域での農業・林業・水産業の担い手状況を共有化



新規参入希望者に説明する重点地域の農業者



視察の受け入れで、多くの方が新規参入を検討していることを実感したよ。彼らの受入方法を真剣に考えたいな。（農業者）

内部でも担い手に関する情報共有がありませんでした。各産業リーダーの座談会を検討し、課題の共有を図りたいです（役場職員）



### 4 今後の対応

#### 夏秋どいいちご経営の安定化

- ・花房整理の違いによる効果を検証。
- ・流量計導入による省力効果を検証。

#### 畜産経営の安定化

- ・牧草栽培技術習得のため、草地管理や肥料、粗飼料給与方法の勉強会を開催。
- ・粗飼料の栄養価を考慮した飼養管理の提案と助言。

#### 担い手の確保

- ・重点地域での就農体験、新規参入者の受入体制に関する協議。
- ・町内1次産業従事者による座談会。